

「聖霊によって」

(マタイによる福音書 1:18-25)

「イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。」と始まる今日の福音。直訳すると「イエス・キリストの起源はこのようであった。」です。ここで「起源」と訳される単語は「ゲネシス」というギリシャ語で、マタイによる福音書 1:1 「系図」にも同じ単語が使われています。「ゲネシス」という単語は、旧約聖書のギリシャ語訳では創世記のタイトルとされ、英語でも創世記は「Genesis」です。このことから、神の創造の物語とイエス誕生の物語とが重ね合わせられているように思えてなりません。ことに降臨節にあつて、創世記のカインによる弟殺しと、イエス誕生直後のヘロデによる嬰兒大量虐殺はわたしたちに強烈な自覚を迫ってきます。神の創造の直後にも、イエス誕生の直後にも、人が人を殺す出来事が起こるのです。これはカインからわたしたちに至るまで、人が変わることなく罪深い存在であることを伝えています。カインは弟への嫉妬で弟を殺します。ヘロデも嫉妬や、自らの地位が脅かされることへの恐怖から大量虐殺をします。ここに、どうしようもない人間の姿を認めなければなりません。自らを王とするのが人間です。わたしたち皆がカインやヘロデと同じ人間です。

神から離れることが「罪」だと言われますが、罪深い人間の姿はかくも恐ろしいものです。そしてその姿が自分自身であると認めるとき、わたしたちは自らに頼るのではなく、神からの助けを求めずにはられません。しかし、旧約聖書と新約聖書には決定的な違いがあります。それは、主イエスです。変わることなく神から離れ、罪深い人間の世界に御子が遣わされます。イエス（神は救い）と名付けられる御子は、自らの死と復活によって、神が例外なくすべての命と世の終わりまで共におられ、罪に陥り闇に生きる人間を救われることを約束されました。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」という主イエスの言葉によってマタイによる福音書は終わります。「神の救い」は、インマヌエル（神は我々と共におられる）なる御子によってこそもたらされます。ヨセフが聖霊を受け入れたことでイエスが誕生したように、わたしたちも自らの思いではなく神を求め、神の思いである聖霊によって満たしていただくとき、心から自らのこととして主イエスの誕生を祝うことができます。